

# 馬（軽種馬）の輸入

## <はじめに>

昔から人々の暮らしに深く関わり、慣れ親しまれた名称で呼ばれてきた「馬」。

種牝馬の飼養牧場数が全国の約9割（2023年：総数761のうち北海道690）を誇る北海道が所管地域である函館税関は、その輸入実績も頭数・価額ともに全国比で約7割を維持しています。

そこで、今回は「馬（軽種馬）」の輸入にスポットを当てていきます。

※本トピックスは以下の統計品目番号を計上したのになります。

0101.21-210（純粋種の繁殖用－軽種馬（競走馬以外、妊娠なし））

0101.21-290（純粋種の繁殖用－軽種馬（その他））

0101.29-210（その他－軽種馬（競走馬以外、妊娠なし））

0101.29-290（その他－軽種馬（その他））

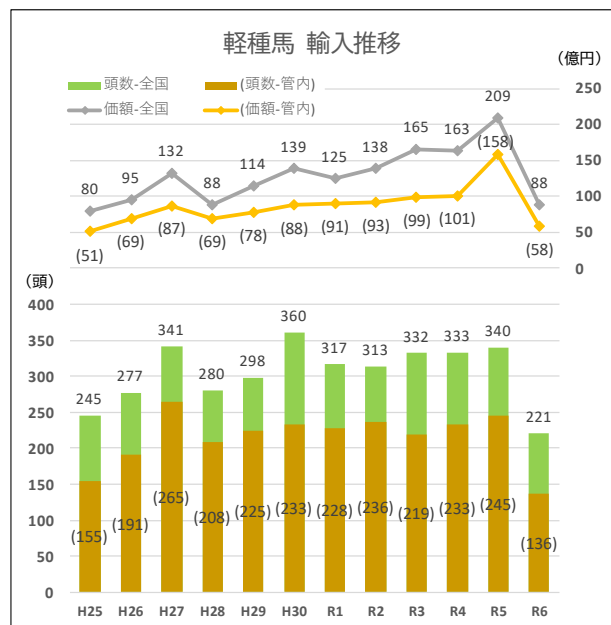
## <輸入データ> ※2024年については1月～10月まで。

### 1. 輸入推移

| 年     | 数量（頭） |     |       | 価額（百万円） |        |       |
|-------|-------|-----|-------|---------|--------|-------|
|       | 全国    | 管内  | 全国比   | 全国      | 管内     | 全国比   |
| 2013年 | 245   | 155 | 63.3% | 7,980   | 5,073  | 63.6% |
| 2014年 | 277   | 191 | 69.0% | 9,486   | 6,928  | 73.0% |
| 2015年 | 341   | 265 | 77.7% | 13,223  | 8,711  | 65.9% |
| 2016年 | 280   | 208 | 74.3% | 8,837   | 6,927  | 78.4% |
| 2017年 | 298   | 225 | 75.5% | 11,421  | 7,793  | 68.2% |
| 2018年 | 360   | 233 | 64.7% | 13,872  | 8,823  | 63.6% |
| 2019年 | 317   | 228 | 71.9% | 12,463  | 9,079  | 72.8% |
| 2020年 | 313   | 236 | 75.4% | 13,832  | 9,251  | 66.9% |
| 2021年 | 332   | 219 | 66.0% | 16,509  | 9,868  | 59.8% |
| 2022年 | 333   | 233 | 70.0% | 16,273  | 10,136 | 62.3% |
| 2023年 | 340   | 245 | 72.1% | 20,903  | 15,832 | 75.7% |
| 2024年 | 221   | 136 | 61.5% | 8,786   | 5,838  | 66.5% |

2023（令和5）年における全国の輸入数量（頭数）は340頭（前年比2.1%増）、金額で209億3百万円（同28.5%増）で、うち函館税関は245頭（同5.2%増）、金額では158億32百万円（同56.2%増）となりました。

また、全国比を2013（平成25）年以降で見ますと、数量で平均70.9%、金額でも平均68.2%となっており、全国トップで推移しております。



### 【プチトピ】

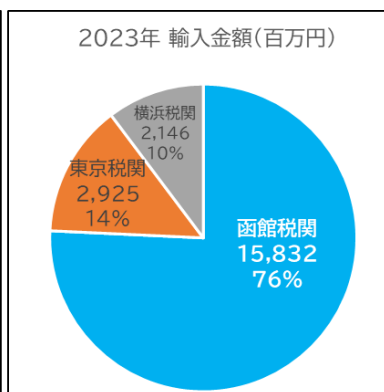
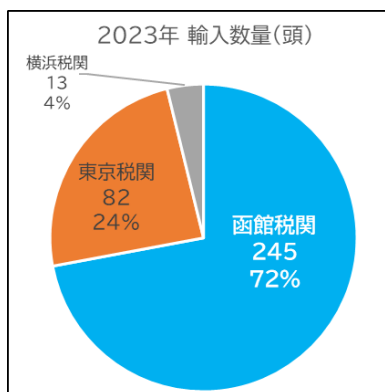
### 「軽種馬」の『軽種』って何？

軽種は主に競走馬や乗用馬として使われる、軽くて素早い動きができる品種でスピードに秀でています。軽種の体重は約400kg～500kgぐらいとのもので、スマートな体型が特徴です。

【主な系統】サラブレッド、アラブ、アングロアラブ、アンダルシアン、など

（出所：みんなの乗馬）

## 2. 税関別（2023 年）



馬はとても繊細な動物ですので、輸送時間が長くなるなどのストレスにより馬体重の大幅な減少などの問題が発生しやすくなります。そのため、通常は航空機による輸送となり、新千歳空港や成田空港が主な発着港となっており、費用のかかる航

空機を利用するのは動物も変わりません。長時間の移動は私たち人間もストレスですからね…。

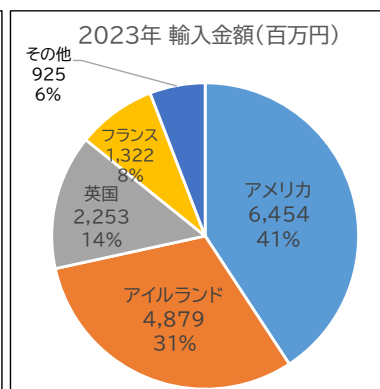
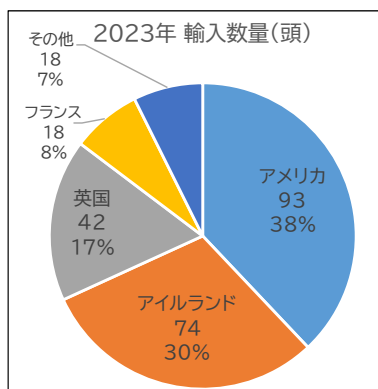
また、日本に到着した後には事前に検疫等にかかる繋留が必要となり、それらを経た後に輸入手続きが行われることとなります。

## 3. 国別（2023 年：当関のみ）

日本におけるサラブレッドの歴史も 100 年を超えましたが、その礎は明治末期から大正・昭和初期にかけての欧米からの繁殖牝馬の輸入といわれています。

当関における輸入相手国別でみますと、やはり世界的な

競馬の開催国であるアメリカやアイルランド、英国などが馬産国としても発展しており、輸入相手国として上位を占めています。



### 【プチトピ】

### 海外で活躍する「サムライ」はここにも・・・

競馬の重賞競走（GⅠなど）は日本だけではなく海外にも数多くありますが、日本中央競馬会（JRA）に所属する馬で初めて海外に渡ったのはいつ頃か、競馬ファンでもご存じの方は少ないのかもしれませんが。

日本調教馬で初めて海外に渡ったのは 1958 年に米国に渡った「ハクチカラ」という牡馬で、翌 59 年にハンデ戦で日本勢初勝利を掴みました。その後、フランスの凱旋門賞など欧米各国の主要競争に挑戦するも結果が残せずにいましたが、1998 年フランス GⅠで「シーキングザパール」（鞍上：武豊）が日本勢初の海外 GⅠに勝利して以降、香港、オーストラリアやドバイ（UAE）でも勝利するなど日本馬が活躍するようになりました。

また、近年ではサウジカップのような高額賞金競争でも日本馬が優勝するなど、他のスポーツ同様に「サムライスピリッツ」が世界で成果を上げています。（出所：読売新聞社）

### 【本資料に関する問い合わせ】

函館税関 調査部 調査統計課

〒040-8561 北海道函館市海岸町 24-4 函館港湾合同庁舎 3 階

TEL:0138-40-4281(直通)

※本資料を引用する際は「函館税関の資料による」旨注記願います。

